

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校 長	豊田 浩矢	生徒指導主事	徳廣 邦彦
取組事例名	『集団作り・異学年交流の取組（ふれあいウォークラリー）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
○問題行動の未然防止として学級の一体感、所属感、支持的風土の醸成などが挙げられる。そのような学校、学級を目指す一つの方法として異学年交流や集団作りの取組が考えられる。これまで本校では異学年の交流の機会が少なかった。そのため、児童会を主体に異学年交流として「ふれあいウォークラリー」を実施した。異学年交流や集団作りの取組を通して、児童同士の関わりや触れ合いを深め、他者への興味関心や思いやりの心を育むことをねらいとしている。	○「人間関係形成」の視点では、異学年交流や集団での活動を通してコミュニケーション能力を高めると共に 1 人 1 人が認め合い、支え合える児童を育てる。 ○「社会参画」の視点では、児童が主体となり集団活動の取組や異学年交流を計画し実施することを通して主体性を養う。 ○「自己表現」の視点では、異学年交流を通して、下級生は上級生の真似をしようと向上心を持ち、上級生は世話をするなどの役割を担うことで自覚や責任をもち、下級生に慕われることで、自らの自信につなげていく。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○本取組は11月1日、8日、15日の3日間実施した。児童会が主体となり、異学年交流の一環として学校内ウォークラリー（ふれあいウォークラリー）を企画し実施した。異学年交流では、1・6年生、2・5年生、3・4年生の2学年がそれぞれペアとなりウォークラリーを行った。ウォークラリー以外の日は、各学級で集団作りの取組を行った。 【ふれあいウォークラリー】 ・ウォークラリーでは、児童会が考えた高須小学校に関する問題を学校内に掲示し、各グループ（ペア学年）で協力して解いていく。解いていった答えをつなぎ合わせると最終的に1つの言葉が浮かび上がってくる。  【集団作りの取組】 ・取組については、各学級で特別活動の時間を利用し、学級会を通して考え実施していった。学級会は児童が主体的・対話的な話し合いを行い、協働的な実践になるよう充実したものにしていくよう教職員で確認し実施していった。 	児童にめあてをもたせるために ○ふれあいウォークラリーを行う前に実施学年を体育館に集め、めあてを伝えた。本取組では、「高須小学校のことをもっと知ろう。」 「他の学年と仲良くしよう。」という2つのめあてを児童会が考え児童に伝えた。  児童の意欲を高めるために ○事前にペア学年の上学年には、下学年を引っ張るための意欲付けを各学級で行った。その中でウォークラリーを円滑に進めるために、低学年が読めるよう名前を平仮名で書いて貼ったり旗を作ったりするなど、児童が主体的に考える場面が多かった。  児童の頑張りを認め、価値付けるために ○ウォークラリーでは、最後に体育館に集まり答えの確認をした。また、グループで互いの頑張りを認め合う時間も設けた。 ○集団作りの取組では、話し合い活動を事前に設定することで、クラスで大切にしたい価値観を共に考えたり、やりたいことを実現させる喜びを感じたりすることができた。



3 成果と課題

○児童同士の関わり合いを多く見ることができた。特に上学年が下学年に優しく接し、下学年が喜んでいる様子が印象的だった。 ○本校で取組期間後に行った学校環境適応感尺度（アセス）の中の友人関係に関する項目である「友人サポート」「非侵害的関係」の数値が1学期に実施した時と比べ1～2ポイント上昇した。 ●取組中に交流ができず活動が進まないグループがいくつかあった。来年度に向けて全ての児童が主体的に企画・実施していけるように手立てを考えていくと共に、教職員間の本取組への共通理解をさらに深める必要があると感じる。 ●本取組だけではなく、継続的に進められるような他の取組を考え実施していきたい。
--